



絶対に 壊したくない 東ティモールの海



東ティモール訪問の報告 金山 重之

2025年11月、山口副理事長、米田理事とともに、ティモール・ラウテン県コム村を訪問し、今後のプロジェクト推進に向け地域で活動する人々への聞き取りを行いました。

現地では、自然環境を守りながら生活を支える取り組みが、少しずつ広がっています。

海岸では、海藻養殖や畑作などを組み合わせ、気候変動による漁獲量の減少に備える努力が続けられています。活動の背景には、食料を自らの手で確保するという現実的な必要と、働くことを大切にする信仰的な価値観がありました。また、将来的には地域の人々が協同組合のような形で協力し、国との適切な利益配分を模索したいという構想も語られました。

一方で、地域にはさまざまな課題もあります。特に深刻なのがゴミ問題です。観光客の増加に伴い廃棄物が増えています。収集体制は十分ではなく、住民が自ら運搬や焼却を行わざるを得ない状況です。ペットボ

トルなどは買い取り制度がなく、リサイクルも進んでいません。村では、清掃活動を行うグループをつくり、外部の支援を受けながら解決策を探りたいという希望が聞かれました。



また、コム村ではウミガメの保全活動が続けられています。かつては食用とされていたウミガメですが、保護の呼びかけや住民の意識の変化により、現在では多くの人が捕獲を控え、産卵場所の見守りや孵化の保護を行っています。こうした取り組みは観光資源としても注目され、地域の収入源の一つにもなりつつあります。

さらに、若者の雇用や教育の問題も大きなテーマです。優秀な人材がいても、縁故による採用が優先され、十分に能力を發揮できないという声も聞かれました。その結果、多

くの若者が海外へ流出してしまう現状があります。地域の発展のためには、教育と公平な雇用の機会が不可欠であることを改めて実感しました。

今回の訪問を通して感じたのは、地域の人々が外部からの援助をただ待つのではなく、自分たちの力で持続可能な地域を築こうとしていることです。自然を守りながら暮らしを立てる努力、子どもたちや若者の未来を考える姿勢、そして地域をより良くしたいという強い思いに触れることができました。

今後も現地の人々と連携しながら、こうした取り組みを支えていきたいと思っています。



「ウミガメを再び私たちの浜に!」 漆原 比呂志

今から約70年前まで、鎌倉の由比ヶ浜にはウミガメが上陸し、産卵していたといわれています。昨年8月5日、海の家「Quick Silver」さんの会場をお借りし、鎌倉中央ロータリークラブとの共催で、ウミガメ保護を呼びかけるイベントを行いました。海水浴客や東ティモール人留学生も参加し、「ウミガメを再び私たちの浜に」という夢に向けて、楽しく学び、考えるひとときとなりました。

その後、知識をさらに深めるため、10月15日にAFMET理事4名で新江ノ島水族館を訪問し、展示飼育部の佐野真奈美さんをはじめ職員の方々からお話を伺いました。相模湾では、かつては年間6件ほどウミガメの上陸が確認されていましたが、近年は多くても1～2件に減少しています。母ガメは産卵地を探す際、光や騒音など人の気配に大きく影響を受けるほか、地球温暖化により砂浜の温度上昇で孵化率が下がり、海面上昇で産卵場所そのものも減少しています。

こうした状況の中、市民参加型の通報・監視は都市砂浜で有効な保全手段であり、活動の持続性を支える重要な取り組みです。絶滅によって種が失われると、生態系全体に影響が及びます。

AFMETが関わる東ティモールやバリ島の状況も共有しました。東ティモールでは保護法はあるものの遵守に課題があり、卵を守るため囲いのある場所へ移し、孵化後の子ガメの海への移動を支援しています。バリ島では、かつて年間約3万頭のウミガメが儀礼のために殺されていましたが、長年の対話により「血を流さない儀礼」へと変化しました。

地域ごとに課題は異なりますが、東ティモールやバリ島の仲間と連帯し、知見を分かち合いながら、ウミガメと共に生きる未来を目指して歩みを続けていきます。



海の家『Quick Silver』で行われた『ウミガメを再び私たちの浜に!』に集まったAFMETと鎌倉中央ロータリークラブのメンバーたち



観光客と一緒にティモールダンスで盛り上がって



「東ティモールの夕べ」を開きました 渡邊 怜子



私の職場である東京都台東区の訪問看護ステーションコスモスで、「東ティモールの夕べ」を開催しました。

2025年11月26日、東ティモールのことを多くの人に知っていただきたいという趣旨で、AFMETの山口副理事長と私の他に、今回は、橋場診療所の井上泉先生や東ティモール人留学生のジュディスさんもお話してくださいました。

2013年にコスモスで働き出してから、井上先生とは同じ患者さんを担当したり、急な訪問診療のお願いに対応して下さったり、何年もお世話になっていました。ある日、「渡邊さんて、東ティモールにいたの？私もいたことあるんですよ！」と話しかけてくださり、思わぬ繋がりに驚き、嬉しくて、患者さんのお宅ではしゃいでしまったことを覚えています。井上先生が持っていた写真には、若かりし頃の漆原理事や歴代のAFMETの派遣者も写っていて、こちらも思わぬ再会となりました。

先生は首都デリのバイロピテクリニックで研修をしていたことがあり、そこで、アメリカ人医師である



ダン先生と出会い、そこからアフリカなどにも活動を広げられ、今は山谷。私は、東部ロスパロスに4年いて田舎にどっぷり浸かりながら生活し、今は山谷です。居た場所も出会った人も違いますが、少なくとも東ティモールが私たちの人生に何らかの影響を与えたことは間違いありません。

久しぶりに東ティモールの話を聴きながら、自分がいた時のことも懐かしく思い出しました。東ティモールで学んだことは、形を変えたり、そのまんまだったりしながら、今の自分の仕事に生かされていると感じています。



2026年の年間計画を話し合う



熱く語る古株のジュベンシオ



新しくAFMETに加わったパトリノ



ご支援のお願い 理事一同

日頃よりAFMETの活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

2025年は4月および10月に理事長が、また11月には副理事長と理事2名が、東ティモール民主共和国ラウトム県コム海岸を訪問いたしました。現地ではキリンサイの養殖およびウミガメ保全の状況を視察し、AFMET現地スタッフのジュベンシオ氏と協議のうえ、必要とされている網・ロープ・海水ポンプ等の支援を行ってまいりました。

東ティモールは昨年10月、念願であったASEAN(東南アジア諸国連合)の11番目の加盟国となり、

国全体がさらなる発展へ向けて歩を進めています。そのような中、地域住民による持続可能な取り組みを支えることは、今後ますます重要になると考えております。

本年も現地スタッフと連携しながら、継続的かつ実効性のある支援活動を展開していく所存です。皆様からいただいたご寄付は、現地の養殖資材の整備や保全活動の充実のため大切に活用させていただきます。

AFMETの活動を引き続き支えていただけましたら幸いです。何卒、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

感謝のうちに

ゆうちょ銀行振替口座
00200-5-29126

◎正会員…年会費 5,000円 ◎賛助会員…年間一口 3,000円

